

鹿児島の植物21

鹿児島のマングローブ

植物担当 寺田 仁志

満潮時には水に浸かり，干潮時には干潟になる場所につくられる森をマングローブ林と呼んでいます。マングローブ林を構成する植物は世界に100種程度あり，日本国内では，ヒルギ科のメヒルギ，オヒルギ，ヤエヤマヒルギ，ヤシ科のニッパヤシなど5科7種あります。県内ではメヒルギとオヒルギの2種で，オヒルギは奄美大島，徳之島に，メヒルギは鹿児島市喜入や南さつま市，種子島，屋久島，奄美大島，徳之島に分布しています。

マングローブには絶えず潮が流入する場所で生きていくため独特の適応形態があります。

①葉の表面から不要な塩分を排出して，浸透圧（塩分）調節をする。

②種子は母木にある時に発芽し，養分を吸収して成長し（胎生植物）て稚苗となり，母木から離れたら，すぐ根を出せる形態になっている。（写真）

③呼吸のための根や植物体を支持するための支柱根，板根などをもつ。

マングローブ林はエビやカニなどの隠れ家や生活の場になったり，水質の浄化を担ったり，また，高潮や津波から陸地を守ったりするはたらきもあります。

鹿児島県は，自然状態でマングローブ林が形成される北限地帯です。鹿児島市喜入の愛宕川河口や南さつま市の大浦川河口，国の特別天然記念物指定を受けている「喜入のリュウキュウコウガイ産地」はメヒルギ1種からなる群落で，成長も遅く，樹高も低いですが，学術的に貴重です。じっくりと見ると，驚くような発見があります。



鹿児島の昆虫19

かごしまの光るホタル

昆虫担当 中峯 浩司

ホタルは光るもの！と思われがちですが，発光する種はわずかで大半は光りません。また，県本土に生息し，カワニナを餌とするゲンジボタルやモノアラガイなどを餌とするヘイケボタルのように，幼虫が水の中で暮らす種は世界でも例外的で，ほとんどは林床に生息し，カタツムリ類を餌としています。

鹿児島県には約20種のホタルが生息します。そのうち光るホタル6種で，上記2種の他にヒメボタル（県本土），オキナワスジボタル（指宿市，南西諸島），キイロスジボタル（トカラ列島以南），クロイワボタル（奄美以南）がいます。

このうち，ゲンジボタルの羽化は4月上旬頃から始まり7月まで見られます。発生のピークは5月中旬から6月上旬頃です。

オスもメスも光りますが，特にオスは同

調して光る習性があり，個体数の多い場所では花火を見るような華やかさがあります。ホタルが光るのは，オスとメスが互いにシグナルを送って交尾をするためで，オスは同調して光ることにより，メスへのアピールを強めていると考えられています。



ゲンジボタル幼虫



ゲンジボタル成虫

風のない蒸し暑い夜が好条件。幻想的な光景を求めて出かけてみませんか？なお，午後8～9時頃が最もよく光る時間帯ですが，明るいうちから出かけて，生息地の様子を確かめておくこともお忘れなく。